



# インボイス

2024

# 3

MARCH  
JAごとう  
No.217

和牛畜産

**飼育環境の徹底的な美化**

食農教育

**芋と米から かんころ餅まで**

五島甘藷生産組合

**価格競争に打ち勝つために  
ブランド化は欠かせない**

消費税申告書指導会

**インボイス制度を理解して節税対策**

牛の状態を観察する山口伸太郎さんの長男 蓮心郎くん  
(五島市岐宿町中嶽)



## 飼育環境の徹底的な美化

牛舎を建てた時の状態に維持することが抵抗力の弱い子牛を病気から守る

株式会社 山口Farm 代表 山口伸太郎さん



給餌の時に個々の牛を観察して健康状態をチェックするという山口さん



牛のもとへ駆け出す山口家の子供たち  
目的は当然、牛のお世話  
清掃して清潔な牛舎を保つことは  
牛の病気を予防するだけでなく  
作業も気持ちよく始められるといひます

和牛の繁殖経営では、生まれた子牛を病気で亡くしてしまうことがあります。多頭飼育の場合、その割合（事故率）は5%から10%といわれ、仮に年間40頭の子牛が生まれたとして、その内2頭から4頭を病気で失ってしまうこととなります。経営に与える影響も決して少なくありません。

五島市岐宿町中嶽で「株式会社山口Farm」を運営する山口伸太郎さんは「これは生き物を扱う以上避けては通れません。でも、事故率を0%に近づけるように対策することはできます」と胸を張ります。

さまざまな病原体が巣食う牛舎を出来得る限り清潔に保つことが、牛の病死を防ぐ最初の対策という山口さんのモットーは『牛舎を建てた時の状態に維持する』こと。これは抵抗力の弱い子牛を下痢や肺炎などの病気から守るため常に清潔を心掛けることを意味しています。

「毎朝、餌やりの前に1時間ほどかけて牛舎の清掃をしています。当然、餌やり後も清掃して、使った道具は定位置に戻す。整理整頓と清掃、清潔を実践しています」

母牛の出産の際にも、新しい藁をたっぷりと敷き詰め、清潔な環境の中で分娩させていると言います。

山口さんが清潔さにこだわる理由は、もう一つ。

「悪臭問題です。昔から牛舎の周りは酷い臭いがするものだと、半ば諦めて放置されてきた経緯があって、これを徹底的に清掃するこ





(株)山口Farmの山口伸太郎さん

島外から農業研修で訪れる学生達の受け入れや食農教育活動にも積極的に取り組んでいます



子牛にミルクを与える長男 蓮心郎くん（上）  
と次男 柊汰くん  
休日には朝からお手伝いに来ています

とで悪臭が生じない清潔な環境になるよう注力しています」

現に、牛舎内は綺麗に清掃され、コンクリートの土間や通路にはゴミ一つ見当たらない状態で、牛舎特有の臭いもなく、代わりに乾いた牧草の良い香りが漂っていました。

飼育環境を整えると同時に、牛の健康状態を把握することも大切と山口さん。

現在、繁殖雌牛50頭を飼育。日々、牛舎を巡回して発情の状況や健康状態をチェックしています。こうした牛の観察は給餌の時にも欠かさず、食事の様子から体つき、排せつ物のチェックにまで及びます。

個々の牛に応じた給餌や対処を施すことで順調に体重も増え、健康で上質な子牛の生産を実現できていると言います。

こうした取り組みが実を結び、山口さんは、昨年行われたせり市（計6回）の中で、最も高額な雌の子牛を販売した生産者として表彰されています。価格は11月のせりで落札された128万1000円（当時の雌の平均価格36万1165円）でした。



# 芋と米からかんころ餅まで

魚目小学校 食農教育



かんころ餅の原料となるもち米作りを担当した5年生



稲刈りに精を出す5年生



甘藷作りを担当した3年生



刈り取った稲は校舎で掛け干し



茹でたあと乾燥させます



皮をむいてスライス



もち米ができました



つきあがった餅の形を整えれば完成



いよいよ かんころ餅作り

新上五島町榎津郷の魚目小学校で食農教育の一環として、かんころ餅作りが行われました。

魚目小学校の3年生と5年生を対象に行われた同活動は、かんころ餅の材料である「甘藷」と「もち米」を、農協職員や学校関係者、また保護者の手を借りながら生産することから取り組みます。

甘藷を担当する15名の3年生は、6月下旬に甘藷の定植を行い、11月に収穫。1月中旬に収穫した甘藷を湯がいて準備を行いました。

もち米担当の5年生12名は、5月上旬の芽出し作業から始まり、苗作りを行って6月上旬には田植え、10月上旬に稲刈りののち、12月に精米をしてかんころ餅作りに備えました。

2月上旬に約10か月を費やした同活動の集大成であるかんころ餅作りを3年・5年生の総勢27名で行い、令和5年度の食農教育の締めくくりとしました。





つきあがったかんころ餅を丸めていきます

# みんなで かんころ餅作り

## フレッシュユミズ部会

2月10日、J.A.ごとう本店にある調理場には、子供たちの楽しそうな笑い声が響いていました。

この日、女性部のフレッシュユミズ部会は、活動の一環として親子教室



参加者全員で作ったかんころ餅を手に笑顔

を開催。会員やその子供たち合わせて10名が参加して、かんころ餅作り体験を行いました。  
子供たちは、顔を真っ赤にしながら蒸したかんころを製餅機を使って練り上げると、出来上がったかんころ餅を楽しそうに丸めていました。  
出来上がったかんころ餅は20本。  
つきたてのかんころ餅を手に会員達は笑顔にあふれていました。

J.A.ごとう女性部は、2月13日と14日の2日間、上五島で研修旅行を行い、上・下地区から合わせて7名の部員が参加しました。  
初日は、講師に上五島青方郷で「トールペイント♡アトリエNAMI」というお店を営む田原奈美枝さんを迎え、トールペイントを体験。

## 女性部活動

# 上五島で交流研修



トールペイントの体験の様子



エコバッグ作りの様子

女性部は、近年SDGsに向けた取り組みにも力を入れており、その一環としての活動となりました。  
参加した部員からは、「今後も女性部として地域に根差した活動を通じて、環境保全への取り組みを続けていければ」との声も聞かれ、有意義な研修旅行となりました。

現在、日本では木材や布、陶器などその素材は幅広く、様々な用途で使われています。  
2日目には、同じく青方郷にある長崎新聞青方販売センター所長夫人の芳賀佳美さんを講師に招いて、新聞紙で出来るエコバッグ作りを体験しました。

トールペイントは、15世紀後半にヨーロッパで始まったアートで、ブリキ等に装飾を施したものです。



講師の芳賀佳美さん（前列中央）と部員のみなさん

## 夏場の収入源 としても魅力 新規生産者求む

きゅうり部会

出荷反省会



挨拶する小林善孝部会長

（ごとう農協きゅうり部会（小林善孝部会長）は1月29日、出荷反省会を開き、令和5年度産の出荷販売実績と6年度の生産計画について協議しました。

部会で栽培されるきゅうりは、そのまま市場に出荷される青果用と、一度漬け込みして販売される加工用がありますが、青果用はごく一部で、大部分が加工用です。

5年度産きゅうりは、71戸の農家が約5・7畝を栽培。ベト病など病害虫の被害も少なく、台風の影響も



加工きゅうりの需要が増加する中、部会では引き続き部会員の増員に努めるとしました

受けなかったことで加工用約427ト、青果用約17トを出荷し、計画の94%となりました。

6年度は、10ア当たり8トの収量を目指し、約450トの集荷を見込んでいます。

近年、関東方面からの需要が増加傾向にあるなかで、部会では、夏場の貴重な収入源にもなる魅力あるきゅうりを産地として維持していくため、今後も新たに栽培する農家を求め、面積の拡大に取り組んでいくとしています。

## 暖冬で雄花の 開花早まり 交配の準備急ぐ

採種葉ボタン

現地検討会



山口豊子さん（右）のハウスを巡回する様子

葉ボタンの採種栽培を行っている野々切町大窪地区で2月22日、現地検討会が開かれました。

同地区では、3戸の農家がタキイ種苗株式会社（本社京都市）の委託を受けて20年以上前から葉ボタンを栽培しています。

検討会では、タキイの担当者が生産者とビニールハウスを巡回。成長具合や病害虫の発生状況などを確認しながら栽培管理の指導がされました。

この時期のハウス内は、病気の原因となるカビ菌が発生しやすいため、株元や葉の付け根の通気性を図るなど、細心の注意を払っています。

また、葉ボタンは、害虫が付きやすく、中でもコナガは新芽の中に潜り込んでしまうため対策が難しいこの事です。

担当者は、「生育は良好ですが、油断なく黒腐病やコナガの防除対策をお願いします。また、暖冬の影響で雌株の成長が早いので、今後、雌株の開花に合わせた手入れが必要になります」と話しました。

3月に入り雌雄両方の花が咲くと重要な花粉交配の時期ですが、今年は少し早まりそうです。

花粉交配は、委託した養蜂業者にミツバチが入った木箱をハウスの中に置いてもらい、一か月ほどかけて行われます。





初めて五島を訪れたという(株)丸促の榎木康博取締役社長は、五島甘藷のブランド化へ期待と意気込みを見せ生産者を激励しました

## 価格競争に打ち勝つために ブランド化は欠かせない

### 五島甘藷生産組合

#### 出荷反省会

五島甘藷生産組合は2月7日、取引先の株式会社丸促(本社大阪市)をはじめ、関係機関が出席して、令和5年産甘藷の出荷反省会を開きました。

丸促の榎木康博取締役社長は挨拶の中で「五島との取り組みも3年が経ち、その間に各地で甘藷の生産が増加して、状況が大きく変わってきました。私たちは、何としても五島の甘藷を他の産地に負けない芋としてブランド化したい」と述べ、生産者を激励しました。

同組合では、10名の生産者が5・3畝の甘藷を栽培。6年産は、作付面積を50%増やす計画です。



品質の高い甘藷で産地化を呼びかける山内代表

出荷実績は、20畝入りのコンテナで5360ケース。10畝当たりの収量は2188畧で、昨年の1・9倍の出荷量となりました。

五島振興局からは「5月から10月にかけて、気温が平年より高い日が続いたため、コガネムシ類などによる害虫被害が多発した。また、サツマイモ基腐病は、栽培された圃場では見られなかったものの、島内で数件発生しているため引き続き



振興局より病害虫防除の説明がされました

き注意が必要」と栽培状況が報告されました。

丸促の営業部の山本伊知郎氏は講評の中で「5年産は、北海道から1000トンを超える出荷があり、今年には更に3倍の量を出すと言っています。このような供給過多の状況の中でも、ブランド化した茨城県産の紅優甘(ベニユウカ)は高価格をキープしており、これが五島産甘藷の目指すところ。栽培技術を上げ



価格競争に負けない芋作りを訴える(株)丸促の山本氏

て、良い芋を作れば価格競争に巻き込まれることなく販売できます。また、自社で作る『冷やし焼き芋』は茨城や千葉の芋が強いですが、将来、五島産に変えていきたいと考えています」と期待を寄せました。

これを受けて組合の代表山内清一氏は、「品質の良い甘藷を作り、これからもブランド化に向けて皆で取り組んでいきましょう」と呼びかけました。

# インボイス制度を理解して節税対策

## 消費税申告書指導会



インボイス制度や申告書作成方法について福江税務署の職員から詳しく説明されました

昨年10月1日から導入されたインボイス制度（適格請求書等保存方式）。

J.A.ごとうでは、初めて迎える消費税の確定申告に合わせ、2月5日から二日間、『消費税申告書指導会』を本店で開催しました。

対象となったのは、『J.A.ごとう青色申告会』の未加入者で、今回、インボイス登録をしたことで消費税の免税事業者から課税事業者になった畜産農家60名。

会場では、指導に訪れた福江税務署の職員から制度の説明や申告書の作成方法などが指導され、参加した方々は真剣な表情で取り組んでいました。

消費税の課税期間（昨年1月1日～12月31日）でインボイス制度が始まった10月から12月までの3ヶ月のうち、牛のせりが行われたのは11月の1回のみ。このせりで牛を売っていない農家にとって確定申告は関係のない話のようですが、「インボイスの発行事業者は消費税の申告が必要です。申告することで収入が無かった人でも還付金が発生

する場合があります」とJ.A.の青色申告会を担当する職員は話します。

参加した農家からは「ぜひ青色申告会に加入したい」という声も聞かれるなど、今回の消費税申告書指導会は大変有意義なものとなったようです。

インボイス制度は、適格請求書（インボイス）を売り手が買い手に発行し、双方で保存することで、消費税の『仕入税額控除』が適用されるもので、インボイスがなければ控除は適用されませんし、このインボイスを発行できるのは、インボイス発行事業者のみです。

また、インボイス発行事業者に登録できるのは、消費税の課税事業者のみで、免税事業者がインボイスを発行しようとした場合には、売上が1000万円以下でも消費税の課税事業者となる必要があるのです。

『仕入税額控除』は、売上時に受け取った消費税額から仕入時に支払った消費税額を



実際に税務署職員の指導を受け申告書の作成に取り組む参加者

差し引いて納税する仕組みのことをいいます。

畜産農家の場合、取引先（せりの購買者）が消費税の課税事業者であるため、インボイスが発行できない免税事業者のままでは相手に不利益を与えてしまうというわけです。

『J.A.ごとう青色申告会』への加入を希望の方は、最寄りの支店の窓口に準備しております「加入申込書」を使って4月末日までにお申し込みください。



応援  
ありがとう  
ございました！

Bチーム



Aチーム



たすきをつなごう！  
まごころをつなごう！

五島市民駅伝大会



2月11日、第20回五島市民駅伝大会が開催され、J Aごとうから有志職員で構成する駅伝チーム2組が出場しました。

メンバーは、昨年11月から週に3日、練習を重ねてきました。結果は、出場した職場対抗の部で、2組共に見事完走を果たし、全12組中Aチームが9位、Bチームが12位でのゴールとなりました。

「大会前の悪天候で、練習が出来ず、思うような結果が出せませんでした」とメンバーは悔しい表情を見せていました。

沿道からの温かい応援、誠にありがとうございました。これからもJ Aごとうは、地域の催しへの積極的な参加を通して、地域社会への貢献に努めて参ります。





## 五島で農業を始めよう!

# JAごとう農業研修生募集

- 1. 研修目標** 新規就農するために必要な知識と技術を身に付ける。
- 2. 研修内容**
  - ①座学研修 就農に必要な肥料・防除についての基礎知識、就農計画の作成演習を行い、農業の基本を学びます。
  - ②実技研修 JAファームごとうやキャトルセンターで作業をしながら生産管理技術を習得します。

令和6年										令和7年								
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
		座学研修																
		←—————→																

- 3. 募集定員** 園芸部門1名、畜産部門1名
- 4. 受験要綱**
  - ① JAごとう管内（五島市、新上五島町）での就農を目指す方
  - ② 研修終了後、JAごとうの生産部会に所属し、共同販売が出来る方
  - ③ 農作業を行うにあたり、健康で意欲のある方。
  - ④ 就農にあたって、資金の準備が出来る方（生活費は別）
  - ⑤ 研修先まで通うことが出来る方
  - ⑥ 研修開始時の年齢が64歳未満の方
- 5. 申込方法** 応募願書に記入の上、JAごとう農産園芸部に提出
- 6. 申込期間** 随時、受付を行っています。
- 7. 選考試験** 面接試験
- 8. 研修期間** 概ね1年間（最長2年間）
- 9. その他** 受講料は無料ですが、テキスト代や保険加入等の実費が必要です。また、就農予定時の年齢が50歳未満で交付要件を満たしている方は国の支援を受けることもできます。

**お問合せ先** JAごとう農産園芸部 五島市籠淵町 2450 番地 1 担当：山本 満  
**TEL: 0959-72-6214 FAX: 0959-72-6498**



# JAマイカーローン

固定金利 年 **1.90%** (保証料込み)

こんな時に便利なマイカーローン

- 自動車・バイクの購入 (新車・中古車)
- 点検・修理・車検費用
- カーナビ等のカー用品購入
- 運転免許証の取得費用
- 車庫建設費用
- 税金・保険の滞り

インターネットでJAマイカーローンの仮申込が行えます。

JAごとう

農業資材価格等の高騰による農家・組合員の資金繰り悪化を  
**農業融資でサポート**

災害対策資金（ウクライナ情勢）

最大1,000万円  
最長5年間

実質金利0%  
(JAバンクによる利子補給)

保証料  
全額助成



## 女性農業者のみなさんへ

農業者年金は今のあなたと  
老後のあなたを応援します

老後生活  
への備えは  
十分ですか？



ポイント1 「終身年金」で、女性の長い老後を**しっかりサポート**します。

ポイント2 家族経営協定を結べば**保険料の国庫補助**も受けられます。  
女性の農業経営への参画を**しっかり応援**します。

ポイント3 税制面で**大きな優遇措置**

詳しくは…   <https://www.nounen.go.jp>





# 令和五年度 第十一回理事会

令和六年二月二十二日(木)開催

次第

## 1 議案事項

議案 No. 1 固定資産の取得について

※可決・承認された

議案事項 その他

## 2 報告事項

報告 No. 1 主な事業経過と行事予定について

報告 No. 2 主要事業1月末計画と実績について

報告 No. 3 産直市場「五島がうまい」1月末実績について

報告 No. 4 令和5年度1月末食肉販売実績について

報告 No. 5 令和6年1～2月期県内家畜市場市況について

報告 No. 6 令和6年度上半期理事会・定例会の開催日程について

報告 No. 7 総代会までの主要スケジュールについて

報告 No. 8 令和5年度期末見込および次年度事業計画について

報告 No. 9 組合員アンケートの集計結果について

報告 No. 10 令和5年度第3四半期コンプライアンス・プログラム実践状況について

報告 No. 11 令和5年度第3四半期自主検査結果とりまとめについて

報告 No. 12 令和5年度第3四半期相談・苦情等の対応状況について

報告 No. 13 反社会的勢力排除対応管理先対応状況について

報告 No. 14 令和5年度第3四半期余剰金の運用状況について

報告 No. 15 令和5年度12月末資産自己査定結果について

報告 No. 16 令和5年度第3回債権管理委員会の結果について

報告事項 その他

## WEB年金相談会のお知らせ

年金についてのお困りごとを

社会保険労務士へ相談してみませんか？

開催日 毎月第2水曜日(祝日の際は翌営業日)

開催時間 1)09:00～09:50 2)09:50～10:40  
3)10:40～11:30 4)11:30～12:20

詳細は本店金融部までお問合せ下さい  
☎0959-72-6212

## 施設作業員募集

作業場所	作業期間
育苗センター	3月～11月
アスパラ選果場	3月～10月
ブロッコリー選果場	12月～5月
高菜加工施設	12月～3月

詳細は本店 農産園芸部までお問い合わせください。  
☎0959-72-6214



### 株式会社 JAごとう葬祭

【本店】  
〒853-0041 長崎県五島市籠淵町 2450  
電話 0959(72)8211 FAX 0959(74)5266

【上五島支店】  
〒857-4404 長崎県南松浦郡新上五島町青方郷 355-7  
電話 0959(52)2417 FAX 0959(43)1955



## 産直市場 五島がうまい

住所：〒853-0041 五島市籠淵町2450番地 1  
電話：0959-88-9933 FAX：0959-88-9922  
営業時間：9時～19時 (7月～8月)  
9時～18時30分 (上記以外の月)

※農家レストランは10時30分～14時 (予約については別途)  
※土日限定バイキング 11時～14時  
料金 大人：1,500円 子ども：700円 (小学生以下)  
休業日：棚卸日 (9/末、3/末) 年始 (1/1・2・3)  
水曜日 (農家レストランのみ)

## 編集後記

2月は逃げ月とはよく言ったもので、今年はいうう年で1日多かったとはいえ、やはりあっという間に過ぎてしまったような気がします。締切りに追われつつ、ようやく完成したのも束の間で、早速次月の4月号の準備をしながら後記を書いています。

1年経つのも早いもので、今月号が今年度最後の広報誌となりました。今年度の広報誌は表紙のデザインや、紙面レイアウトの変更など、大きく手を加えた1年となりました。次年度はこの内容を継続しつつ、更に皆様に楽しんで頂けるような、充実した広報誌を作れるよう頑張りたいと思います。

(長瀧 俊一)



●JAごとうNo.217 ●発行/ごとう農業協同組合 編集/総務部企画管理課 〒853-0041 五島市籠淵町2450番地1 ☎0959-72-6211  
●http://www.ja-goto.or.jp ●印刷/(株)昭和堂

※本書の無断転写、複製、複写を一切禁じます。